

ミニ・シンポジウム
国内所蔵の
西洋古典籍を
いかに活かすか

一早稲田大学図書館所蔵
コルヴェア文庫所収の貴重書を中心に

日本国内の大学図書館などには数多くの西洋古典籍が所蔵されています。それらを有効活用することで、実りある研究を進める余地がまだまだあります。

このシンポジウムでは、早稲田大学が所蔵するコルヴェア文庫（15世紀から19世紀に及ぶ、政治、経済、哲学に関わるフランス語の古典籍や掲示物など約1万点からなる大型コレクション）に収録された貴重書を中心としつつ（必要に応じてほかの図書館に所蔵されている貴重書を組み合わせながら）、国内に所蔵されている貴重書の有効活用に向けた研究事例を紹介します。

参加者の皆様の今後の研究、実務のご参考になりましたら幸いです。



～ Program ～

- 13:30-13:40 趣旨説明
- 13:40-14:15 「文庫とその周辺 Corvaia, Gerits, Bernstein」
福島 知己（帝京大学経済学部准教授）
- 14:15-14:50 「旧体制下フランスの非正規本：
リヨンで印刷されたエルヴェシウスの作品の場合」
坂倉 裕治（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）
- 14:50-15:05 - 休憩 -
- 15:05-15:40 「コルヴェア文庫における1649年」
雪嶋 宏一（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）
- 15:40-16:20 総括討論
- 司会進行 小関 武史（一橋大学大学院言語社会研究科教授）



2022/12/3 (土) 13:30-16:20 (13:15 接続開始)
オンライン開催

参加申込：以下の Web サイトから登録してください
<https://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/lecture/>

申込期限：2022/11/28 (月)

お問合せ：一橋大学社会科学古典資料センター
email: chssl@ad.hit-u.ac.jp tel: 042-580-8248



主催：「啓蒙の言説圏と浮動する知の境界：貴重書・手稿・デジタル資料を総合した18世紀研究」

(科研費基盤研究 B) 研究グループ

共催：一橋大学社会科学古典資料センター

後援：日本18世紀学会

協力：早稲田大学図書館